

知財の広場

注目の知財キーワード「MPDP 理論」

「MPDP 理論」とは、株式会社エンジニア（本社：大阪）の代表取締役社長である高崎充弘氏が編み出されたヒット商品を生み出す法則です。

高崎社長は、ネジ穴が潰れたネジ（なめたネジ）を簡単に回せるプライヤーを開発され、年間1万本売れれば大ヒットと言われる工具業界において、2002 年の発売開始からの類型販売本数で 400 万本以上を達成されています。その過程において、ヒット商品を生み出すには4つの要素、すなわちマーケティング（Marketing）、パテント（Patent）、デザイン（Design）、プロモーション（Promotion）に集約されることを見出され、これを MPDP 理論と名付けられました。中小企業が活躍するには、顧客の潜在ニーズを把握するための調査活動（M）、知的財産権による保護（P）、プロモーションを意識したデザイン開発（D）、さらに製品の特徴を伝える販促活動（P）を意識した開発が重要であると提唱されています。さらに中小企業において最大のボトルネックは P:パテントのプロセスであり、社内知財レベル向上のため社員に知財検定の受験や、J-PlatPat による先行技術調査を活用した研究活動を進められています。

そんな高崎社長のお話しを聞いていただける機会として、INPIT 滋賀県知財総合支援窓口主催で『滋賀県知活用シンポジウム～知財を活用した経営の実践～』を開催します（日時：7月2日（火）13 時 30 分～16 時 30 分、会場：草津市立市民交流プラザ大会議室）。併せて滋賀県を代表する企業である株式会社日吉の村田弘司社長から知財活用の取り組みの事例をご紹介頂き、両社長と三雲弁理士（日本弁理士会関西会滋賀地区会会長）、当窓口のナビゲーターとのパネルディスカッションを行います。知財を活用した経営とはどのようなことかを考えて頂く機会として、是非ご参加ください。



お申し込みは、一般社団法人滋賀県発明協会の HP (<http://www.jiii-shiga.jp/>) に案内書を掲載していますので、そちらを参照ください。

知財ナビゲーター 田中 和男